

第21回 曽於市社会福祉大会

福祉作文 2025

優秀賞一覧

目次

学校名	学年	氏名	作品名	ページ
檉小学校	6 年	しいや 椎屋 りょうすけ 諒 亮	思いやりを伝えたい	P1～3
柳迫小学校	5 年	ふくもと 福元 ゆうせい 佑誠	みんなと給食を	P4～6
柳迫小学校	4 年	さえぐさ 三枝 はつ き 初希	福祉って何だろう	P7～9

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

(月 日 曜日)

思いやりを伝えたい

梶小学校 六年 椎屋 諒亮

ぼくは、学校の道徳の授業で「思いやり」について学習した。ぼくは、思いやりについて家で調べてきた。ぼくの思う思いやりとは、「相手の気持ちを考えること」と思っていた。意味は、「その人のためを思っている」ということ。相手の気持ちや立場を理解し、気遣いする心。そしてその行動ややさしさや配りよと書れていた。ぼくが思っていたの

は近いけど、もっと複雑だと感じた。

ぼくが今できている人を助けることは、算数の時間だ。ぼくは算数が好きだ。数学や計算といったことはもちろんだけど、分からないところがある友達に教えるのが好きだ。困っている人がいたら助けてあげたいとぼくは思う。教えるはとしても難しい。ぼくの仲では分かっていても、それが友達に伝えるのは不安だ。やりかたのコツを伝えるなど、ぼくに工夫している。そしてぼくも分からないと

3 詩はどの行も、ばんめいマスから書き頭をそろえましよう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下けて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

(月 日 曜日)

ころがある。と教えてくれる大好きな友達がいます。

ぼくは母によく、「やさしすぎる」と言われる。でも、ぼくの「やさしさ」は、相手の気持ちや立場を理解し、気遣いする心意味ではない。ぼくは、人にえんりやしすぎているということだ。周囲の意見に合わせようとすることが多い。相手の気持ちを考えすぎなところもある。

今、ぼくが心にかけていることは、相手の気持ちを考えること、言葉遣い、感謝する心をもつということだ。友達といっしょにしていると仲が良いばかりに、口調が強くなったりよびすてで呼んだりしてしまうことがある。でも怒った口調で話しかけるのはぼくは嫌だ。だから、一つ一つの言葉の重みを考えて友達に伝えていきたい。相手の気持ちを考えているつもりでも、友達の意見に左右されたり流されたりするときもある。そんなときは少し、しんこきゅうをして、なぜこんな口調になっ

No.

- 3 詩はどの行も二ばんめのマスから書き頭をそろえましよう。
- 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ） 月 日 曜日

てしまったのか、相手の気持ちを考えきくと気持ちを書き伝えたい。そして、助けってもらったこと、ありがとうと感謝の言葉をきちんと伝えていきなり。

現在、ぼくは六年生だ。六年生は男子が七名で、みんな個性豊かな。ぼくの友達だ。その中には、自信をもって発言できる友達、思いやりがある友達もたくさんいて、ぼくはその友達に負けていると感えている。ぼくも自分の意見を堂々と言え、自分になりたい。そして思いやりの気持ちをもち、友達への感謝の気持ちを忘れずにいたい。なりたい自分を目指し、残りの小学校生活を悔いのないものにしてほしい。

No.

- 3 詩はどの行も、ばいめのマスから書き頭をそろえよう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

(月 日 曜日)

みんなと給食を

曾於市立柳道小学校 五年 福元 佑誠

みなさんは、ふ段教室で楽しく友達と給食を食べていますか。

ぼくには、牛にうとたまご、ピーナッツの食物アレルギーの他にも四つのアレルギーがあります。そのため、去年まで給食は校長室で食べていました。また、給食のメニューに合わせて母が作ってくれたお弁当を食べていました。でも、去年の秋から給食センター

が新設され、パン以外のいよ去食の対応ができなくなったのです。そして、今年の春からはみんなといっしょに給食を食べられるようになったのです。

これまで、ぼくは三回アレルギー症状が起きて、救急はん送されました。原因は様々です。そのときは、いつも親がそばにいてくれて、通報したりエピソードを打ってくれたりして、事なきを得ました。しかし、学校には親はいません。だから、自分の命はまず自分で

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

(月 日 曜日)

守ることが大切なのです。

そんなぼくが、今年から給食を食べるよう
になって、たくさんのごことに気を付けていま
す。症状が出にくいように手と口にワセリン
をぬっていきます。また、みんなともきょうを
とって給食を食べるようにしています。また、
みんなよりも先に、じょうきよ食べないものを
ついでいます。おかわりいやんけんも遠くか
ら参加してきます。ですが、ぼくが教室で給
食を食べることができているのは、たくさん

の人の協力があるからです。例えば、給食を
教室で食べ始める前に、両親や学校の先生た
ちは何回も打ち合わせをしてくださいました。
どうしたら安全に給食を食べることができ
か考えるのは、難しく、たと思います。また、
給食センターの人は、ぼくに合ったじょう
食を作ってくださいます。保健室の先生
も細かくこんだて表を、確認したり、布巾をあ
けたりしてくださいます。それに、学級の友
達もとても気を付けて、牛乳パックを水道で

No.

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

(月 日 曜日)

洗わずにたたんで捨てたり、給食時間は一
トール以上きまりをとるようにしたりして
れています。また、給食がこぼれたときに
ぐに知らせてくれます。このように考えると、
ぼくがこうしてみんなと給食を食べることが
できているのは、周りの人たちの協力がある
からです。

ぼくには、弟がいて、弟にもアレルギーが
あります。弟は負荷を続けてちよつとずつ良
くなつてきています。ぼくも負荷をかけ少し

良くなつてきてはいませんが、アレルギーがな
かるにはほど遠く、困難なことですが、
これから自分のアレルギーをなおす努力を
していきたいと思います。アレルギーがある
と大変なことは多いけれど、楽しく過ごせ
ていることを伝え、他のアレルギーをもつて
いる人たちははげましていると思っています。

No.

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 だいたくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは、二ぎようめに書き、文しうは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらく二とにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

(月 日 曜日)

福祉って何だろう

四年 さえぐさはつき

「四年生の総合では、福祉について学習しま
す。」

と、先生が言いました。わたしは、福祉って
何だろうと思いました。そこで、みんなでタ
ブレットで福祉の意味を調べました。すると、
「ふだんのくらしをしあわせにする」という
意味が分かりました。

次に、福祉から思いつく言葉を書いていき

ました。福祉から、かいごし、ようかい、目
が見えない、耳が聞こえない、点字、点字ブ
ロツク、ほちようきなどの言葉が出てきまし
た。また、福祉↓もうどう犬↓ベルナ↓ベル
十のしっぽという言葉も出てきました。ベル
十のしっぽとは、本の名前です。ベル十とい
うもうどう犬が、目のふ自由な人が安全に生
活できるようにいっしょにすごしていきます。
それから、目が見えない人の体けんをしま
した。アイマスクをつけたら、目の前が真っ

- 4 、と、は、それぞれ一字にきざえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいたくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは、一ぎようめに書き、文しうは、一ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きげて書きはじめ、だんらくのことにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも二ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

(月 日 曜日)

No. 2

暗になりました。二人組でペアになって、教室からろう下を通って自分の席までもどりました。どこにだんさがなるか分からなかつたので、とてもこわかったです。目がふ自由な人は、これがずとつづいて、道を歩くときは、白じょうを持て歩くそうです。だけど、あたしは、白じょうだけにはこわいと思います。白じょうがあれば、道を歩くときに、前にしうが、い物があたらよけられます。でも横だん歩道をわたるときに、青になつてもまだ赤かと思つてわたれなかつたり、反対に、まだ赤だけど青かと思つてわたつてしまつて、青になつたら、ピポ、ピポ。と音がなる信号機もあるそうです。でも、柳迫のようにないところもたくさんあります。あたしたちは、もし、目が見えない人が、道をわたれなくてこまいていたらどうすればいいか、どんなことができるかを話し合いました。

→ 目のふ自由な人がいれば、助けてあげたい。

- 4 「と」は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは、一ぎようめに書き、文しうは、二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

(月 日 曜日)

と言いました。先生は、
目が自由なだけでいいですか。

と言いました。

耳の自由な人も助けたい。

体が自由な人もいるよ。

と、みんなが発表しました。すると、先生は、

体が自由なだけでいいですか。

と言いました。みんなが静になり、考えま

した。先生は、

こまわて、いそうな人がいたら、だれにでも

だいじょうぶですが、と声をかけることが

大切です。

と言いました。先生もこまわて、いるときに、

だいじょうぶと聞かれて、ほっとしたそ

うです。わたしは、こまわて、いる人を見かけ

たら、勇気を出して声をかけようと思います。

福祉のことが少しずつ分かってきました。

これから、皆来館に行ったり、にんちしように

について学習したりするそうです。福祉につ

いても、勉強したいです。

- 4 とは、それぞれ一字にきえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)

